

ケニア半砂漠地域にあるイシンヤ地区の学校での環境教育を兼ねた植林緑化活動 (3年目)

活動地域  ケニア

ひろげる助成

3年目

実践

植林本数 **4,000本**

植林活動参加者 **941人**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **100%**

苦労した点と工夫した点

■ 苦労した点

新型コロナウイルス感染症の影響による学校休校のため植林活動が予定時期にできなかった。日本人専門家が現地に渡航できず、従来型の研修を変更せざるを得なかった。

■ 工夫した点

貯水タンクを休校中に設置し、学校再開直後に植林活動を実施できるようにした。地域開発研修は現地専門家を雇用し、オンライン参加の日本人専門家のフォロー体制を整えた。



植林専門家から苗木の扱い方法を学ぶ児童

課題

ケニアのイシンヤ地区は慢性的な干ばつ状態に加え、家畜の過放牧等で樹木が失われている。しかし住民のマサイ族には環境保全の意識や慣習がなく、砂漠化が進んでいる。

目標

学生と住民が植林緑化活動意識を向上させ、学生は自身が植えた苗木の世話を継続する。デモファームで作った野菜が給食で提供される。現地農業省は活動推進体制を整える。

活動内容と成果

- イシンヤ地区4校と4村で植樹を実施し、生徒、教職員、住民等計941人が参加、4,000本を植樹
- 水のない5学校に貯水タンクを各1基(計5基)を設置し、点滴灌漑を整備
- 4校で生徒、教職員、住民等に環境教育を実施し、計941人が参加
- 4校にデモファームを設置し、計9,000本の野菜の苗を植え、栽培を開始
- 現地農業省とオンライン連携会議を毎月1回実施(計12回)
- 4村の地域リーダー、教諭、行政職員等に合同地域開発研修を1回実施し、50人が参加。日本人専門家はオンラインで研修を指導



学校での環境教育



地域住民が参加した地域開発研修を実施

全助成期間の活動を振り返って

本事業はマサイ族の環境意識向上が容易ではないと考え、彼らの子息を直接受益者とする活動として開始した。しかし活動開始直後から住民の反響が大きく、活動を学校のみならず周辺村へ拡大し実施した。3年間の活動により、地域の環境破壊への危機意識と環境保全活動力は向上している。当団体と現地農業省との連携体制も強化され、農業省が中心となった環境再生への取組み力は向上していることから、本事業の実施意義は大きい。

〒157-0072
東京都世田谷区祖師谷4-1-22-2F
電話：03-3484-5092
E-mail: staff@icajapan.org
HP: http://www.icajapan.org



今後の展望

現地農業省と協力し、事業のフォローアップを行う。現地農業省が主体となってケニア政府に環境保全活動への補助金を給付させる働きかけを行うために、当団体はICAケニアと協力し現地農業省職員の能力強化に向けた指導を行う。日本では、ケニアの植林活動の支持者(寄付者)を募るために、本事業の成果報告等を含む広報を継続して実施し、資金調達を図る。